

平成 2 5 年度病虫害発生予報第 1 2 号

平成 2 6 年 3 月 4 日
愛 知 県

普通作物

・留意事項

排水不良はムギ類の赤かび病の発生を助長するので、今のうちに排水溝の手入れなどを実施しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	やや多い	全域	昨年秋期の発生量はやや多い 3月の降水量はやや多い	+ +
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	昨年の発生量は平年並 3月の降水量はやや多い	± +
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	昨年の発生量はやや少ない	-

・防除対策

[ナシ・黒星病]

発芽前までに速やかに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、りん片発病芽は見つけ次第除去し、I C ボルドー 4 8 Q やデランフロアブルなどでりん片脱落期に防除しましょう。なお、薬害の心配があるので、石灰硫黄合剤と I C ボルドー 4 8 Q の散布間隔は 2 週間以上あけるようにしましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

春型枝病斑は見つけ次第切り取って除去しましょう。カスミンボルドーや I C ボルドー 4 1 2 などでは開花直前に防除しましょう。

・留意事項

今後の気温は低いと予想されていますが、春先は寒暖の差が大きいため、果樹の生育ステージに留意した栽培管理や防除を心がけましょう。

昨年秋にフジコナカイガラムシの発生量が多かったカキほ場では、越冬密度が高くなっていると予想されます。発芽前にマシン油乳剤で防除しましょう。

ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生量が多いほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
タマネギ	白色疫病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は低い 3月の降水量はやや多い	－ － ＋
	べと病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は低い 3月の降水量はやや多い	± － ＋
トマト (施設)	疫病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は平年並	－ ±
	葉かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は平年並	－ ±
	ハモグリバエ類	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない	－
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない	－
	灰色かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は平年並	－ ±
	すすかび病	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間は平年並	＋ ±
	ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温はやや低い	± －
キュウリ (施設)	べと病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並	± ±
	うどんこ病	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多い	＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キュウリ (施設)	灰色かび病	やや少ない	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間は平年並	－ ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の気温はやや低い	＋ －
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや多い	全域	2月下旬の発生量が多い 3月の気温はやや低い	＋ －
	ミカンキイロ アザミウマ	やや多い	全域	2月下旬の発生量が多い 3月の気温はやや低い	＋ －

・防除対策

〔ナス（施設）・すすかび病〕

発病葉は新たな伝染源となるので、早めに除去しましょう。同一系統薬剤の連用は避け、アフエットフロアブルやプロポーズ顆粒水和剤などで防除を徹底しましょう。

〔キュウリ（施設）・うどんこ病〕

発病葉は新たな伝染源となるので、早めに除去しましょう。同一系統薬剤の連用は避け、トリフミン乳剤やベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

平成25年10月1日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

〔イチゴ（施設）・ミカンキイロアザミウマ〕

スピノエース顆粒水和剤やカスケード乳剤などで防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮し、薬剤を選定してください。

・留意事項

東三河地域のキャベツほ場において、コナガの発生量が過去10年と比較して最も多い状況です。本日発表の「コナガ情報（キャベツ）」を参考に防除しましょう。

果菜類の灰色かび病は曇雨天が続く、多湿になると発生量が増加します。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。また、罹病部位は伝染源になるので、見つけ次第除去しましょう。

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの発生が多いほ場があります。発生が少ないほ場においても、今後、気温の上昇に伴い、増殖しやすくなります。黄色粘着板などを設置して発生状況に注意し、発生量が多くなる前に防除しましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病やウイルス病が発生していない親株から穂を採りましょう。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台2月28日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり低くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、低い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：50% 平年並：30% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。